

かない。極めて呑氣な目的の研究所であつた。けれども主人が其處に入學したのは決してそんな悠々閑日月有と云ふ様な理由ではなく或る一種の眞面目な野心を持つて通學して居つたのであつた。その時分の講習所は無論、規模も小さく、始まつた計りでもあり、少しも世間に存在を認められて居なかつた、而かも僅々一ケ年の後、その少々たる講習所が一躍今の小石川に在る水彩畫研究所となり、堂々たる建物は行人の足をとゞめ、隆々たる名聲は漸次天下の耳目を惹くに至つたのを想へば其發達の速かなるに驚くと共に又今昔の感に堪へないものがある。僕はこの次から少しくその時代からの記憶を述べて見やうと思ふ。

#### 日本水彩畫會新會友

静岡縣掛川西町

山本直吉

鹿兒島市大黒町六

今村武兵衛

■『方寸』展覽會號記事には方寸言、展覽會評、すききらひ、浴後、出發前「オノト」來書等にて繪畫は公設展覽會出品畫、くのみ若木、カリカチュア等あり一部送料共十五錢五厘にして發行所は小石川區小日向臺町三丁目十八番地方寸社なり。

『日本美術』十二月號にはシヨールベンホーエルの建築論、日本本彫論、謠曲と圖案、鵬心君に答ふ、舊都の旅其他、畫苑にはコロタイプ七葉を挿む。一部送料共二十六錢發行所は本郷駒込富士前日本美術社なり。

## 寄書

### 展覽會の説

横濱 北野至樂

敢て達人を氣取りて斯く云ふにあらざれども、當今各地に頻々として展覽會の開催せらるゝを見聞するに及んで、余輩は日本各地の展覽會上に高擧するにはあらざれば事實の眞相を看取し難きも、世には不徳なる好事者あり、超然たるべき展覽會をして、自己を廣告するの看板となし、甚しきは入場料を以て一利せんとするの劣輩なしとせず、寔に斯會の爲め嘆惜するのみならず、又以て社會を害するものといふべし、是れ展覽會の説ある所以也。

一國政府の設備せし文部省展覽會に付きてはいざしらず、所謂地方の水彩畫展覽會にありては、其目的は奈邊に存するか、曰く水彩畫趣味普及の一言にして盡く、然らば展覽會を看板として、自作品を見せびらかすを以て目的となすが如きは、没分曉漢として余輩の與せざる所、沙汰の限り也。

善政は善教に若かず、善教は善風に若かず、善風の俗を化するや、其の然るを覺えずして然る也とかや、一般社會人をして吾等が崇美する彩畫を知らしめ、以て彼等を美風に化せしめんと欲せば、各地に於ける同好者諸君は、純美なる精神を抱き、彩畫に目なき者に對し、一點の野心あるたになく展覽會を開かば、自己の極力公衆の便を計りて親切たらん事を期せよ、斯くせば